

B-3 縮ちりあんの曲げかたさ，防しわ異方性
 武庫川女大家政 藤原康晴 ○高田絢子 安田 武

目的 41種の市販の縮ちりあんのドレープ性，曲げかたさ，防しわ強さを測定した結果を前図に報告した。これらの測定値を検討したところ，曲げかたさ，防しわ強さは経，緯方向によつて異なるものが多い。強さの双糸が用いられている緯糸方向は曲げかたさが大きく，防しわ強さが小さいことがわかった。そこで，曲げかたさ，防しわ強さの方向依存性をさらに詳細に検討するとともに，実際に私服を着用したときには生じしわとの関連性についても検討してみた。

方法 曲げかたさはラウーグ法，防しわ強さはモエカエト法，水銀法などを用いて測定した。私服を着用したときには生じしわは，夕夕ミの上，ソファーに1時間生じたときに現われるしわの角強，長さなどから評価した。

結果 曲げかたさ，防しわ強さと経糸方向から15°毎に測定し，極座標にプロットした(右図)。異方性の大きい試料は随円形となり，異方性の小さい試料はほぼ円形となる。曲げかたさと防しわ強さの異方性が対応しており，曲げかたさの異方性が大きい試料は防しわ強さの異方性も大きい傾向がある。

私服を着用して夕夕ミの上には正装したとき，予期されるように，後身頃の尻から下は緯糸方向に平行なしわが多く生じ，ソファーに掛けたときは尻の部分にはバイアス方向のしわが多く現われることがわかった。

